選挙

投票所の統合と閉鎖時間を見直し
平成24年の選挙から適用に

問 町選挙管理委員会（総務課内） ☎282－1111

町選挙管理委員会（光永信一委員長）では、衆議院議員や参議院議員の国政選挙、熊本県知事や御船町長町議などの地方選挙で、投票所と投票時間の見直しを行います。

投票所は、現在の13箇所から12カ所へと変更して、投票時間はすべての投票所閉鎖を1時間繰り上げ短縮します。投票所が統合となるのは、旧第10投票所の中野公民館で、第9投票所の北田代公民館へ統合されます。

統合の理由は▼中野公民館周辺は急傾斜の道路と階段があり転倒の危険性▼駐車場の確保が難しく事故発生の恐れ―を解消するためです。

投票時間の繰り上げは▼期日前投票の利用者が増えていること▼選挙当日の閉鎖1時間前の投票者数が少ないこと▼投票所閉鎖後に開票所へ投票箱を送致する時間的な問題―が主な理由です。

選挙では、選挙人へいち早く開票結果を知らせなければなりません。そうした中で開票事務は、正確で、迅速な作業が要求されます。

今回の見直しは、選挙人の安全性、選挙事務の効率性を重点に、検討した結果の決定です。平成24年の選挙から適用されますので、ご協力をお願いします。

統合となる投票所

旧投票区（投票所）	地区	新投票区（投票所）
第10投票所（中野公民館）	中野	第9投票所（北田代公民館）

各投票所の新閉鎖時間

投票区（投票所）	地区	閉鎖時間
第１投票所（御船中体育館）	御船地区全域	19時
第２投票所（滝尾小体育館）	滝尾地区全域 粒麦（水越）	19時
第３投票所（水越分館）	水越地区（粒麦を除く）	18時
第４投票所（旧七滝小体育館）	七滝地区全域	18時
第５投票所（七滝中央小体育館）	上野地区全域	18時
第６投票所（田代東部分館）	南田代３・４区 上田代、水源	18時
第７投票所（浅の藪公民館）	浅の藪	17時
第８投票所（間所公民館）	間所	16時
第９投票所（北田代公民館）	牧の原、玉来、下山、木戸屋、中野	17時
第10投票所（木倉小体育館）	木倉地区全域	19時
第11投票所（高木小体育館）	高木地区全域	19時
第12投票所（小坂小体育館）	小坂地区全域	19時

期日前投票の実績

衆議院議員選挙 平成21年8月執行	参議院議員選挙 平成22年7月執行	町長と町議選挙 平成23年4月執行
19.36パーセント（2,132人）	21.2パーセント（2,076人）	18.6パーセント（2,154人）

投票所の統合は、10数年ぶりの見直しです。旧第10投票所の中野公民館は、駐車場が無く、投票所までの坂が急傾斜で、転倒の危険性も高く、選挙管理委員会で長年議題に上がっていました。この問題を解消するため、地元へ統合をお願いしました。選挙は安全に投票することが第一です。

投票時間の繰り上げは、不安に思われる人もいるかと思います。ですが、期日前投票もあります。期日前投票は、8時30分から20時まで役場で投票が可能です。選挙当日に投票へ行かない人は、ぜひ利用していただけたらと思います。

選挙管理委員会では、時代に即した選挙のあり方を議論して、前向きな姿勢で審議することが大切です。さらには、若年層の選挙参加も改善策を図っていかなければいけません。選挙の一票は、まちづくりの大切な意思が込められているのですから。

安全第一に投票所を統合へ 時代に即した選挙の改善策



町選挙管理委員会　光永 信一　委員長

誘致

㈱九州食糧が白岩産業団地に進出
最新設備の精米工場建設へ

問 企画財政課企業誘致係 ☎282－1263

県営白岩産業団地（辺田見）に㈱九州食糧（熊本市、木村光男社長）が精米工場を新設することが決定し、御船町は12月5日、県庁で熊本県と3者で立地協定を締結しました。

同社は、菓子食品卸の㈱木村のグループ企業で、米穀の集荷、精米、販売、農作物の検査などを手掛けています。今回の新設は、本社の精米設備能力では、量と質の顧客供給ニーズに限界があったことから、精米能力の増強を図るために、本町へ新工場の進出を決めたものです。

新工場は、敷地面積約5千平方メートル、延べ床面積約2200平方メートルの鉄骨造2階建て。精米機や無洗米製造設備など最新鋭設備を導入し、年間約8千トンの生産能力となります。

完成後は、精米能力をこれまでの4倍に引き上げて、小売店、消費者向けの商品供給力をアップさせるほか、㈱木村あられ工場（甲佐町）で使用する原料のもち米は、すべて新工場から調達する計画です。本稼働は今年4月を予定し、地元からの新規雇用も計画されています。

今回の立地協定で、白岩産業団地への進出企業は4社目。工業用地約4・7ヘクタールのうち、3・5ヘクタールに企業立地が決まりました。

企業誘致係では、「残る工業用地1・2ヘクタールへの企業進出に向けて、誘致活動を積極的に行っていきたい」と話しています。



県庁で立地協定を結び握手を交わす、左から山本孝二町長、木村光男社長、真崎伸一県新産業振興局長

落成

㈱大福物流熊本常温センターが本稼働
物流拠点完成で白岩に活気

問 企画財政課企業誘致係 ☎282－1263

御船町と立地協定を締結している㈱大福物流（甲佐町、藤田章社長）の熊本常温センターが12月8日、県営白岩産業団地（辺田見）に完成して、落成式が行われました。

同センターは、昨年3月に本町へ進出。敷地約1万4千平方メートルに1期工事で倉庫約2千平方メートルを建設して、6月から配送の一部を操業していました。さらに2期工事へ着手して、倉庫と事務所約3千平方メートルを増設。これで、延べ床総面積は約5千平方メートル、鉄骨一部二階建て工事のすべてが完了となりました。

主な業務は、常温加工食品を一時的に保管して、入出庫と保管の管理、先別仕分けを倉庫内で処理。取引先のスーパー、食品工場や飲食店などへの配送を行います。

式で藤田章社長は、「当物流センターは、新しい物流システムを構築していくため、従業員の意見をくみ上げながら建設にあたった。グループ全体で物流機能の重要性を改めて考える機会となった。本社と新しいセンターで、しっかり頑張っていきたい」とあいさつを述べました。

企業誘致係では、「物流センターの本稼働で、白岩産業団地に活気がでてきた。同社の商売繁盛を祈念して、町もフォローアップに努めていきたい」と話しています。



㊤白岩産業団地に2期工事を終え本稼働した大福物流熊本常温センター倉庫
㊦落成式であいさつする藤田社長

